

第2回 定例会

一般質問 食育の推進、地域ケアなどについて質す

平成十八年第二回定例会は、六月五日から十六日まで十二日間の会期で開かれました。

この定例会には、知事からは、茨城県医師修学資金貸与条例など、また、議員からは、茨城県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の一部を改正する条例などの議案が提出されました。

百里特別委 飛行場の利活用で報告書を取りまとめる

アの今後の進め方、理想とする健康長寿社会の姿、自殺予防の取り組み、県北西部地域における取り組み、国際貢献経験者の教員採用などについて質問がありました。(二―三面に掲載)

常任委員会では、付託議案及び大型店の駆け込み立地対策、温室効果ガス削減対策、発達障害者の相談体制、農協の合併促進、エレベーター事故の対処、道德のテキスト作成などについて議論が行われました。(四―五面に掲載)

百里飛行場利活用調査特別委員会では、百里飛行場の利活用の諸方策のあり方についての報告書が取りまとめられ、最終日の本会議で委員長から報告されました。また、県出資団体等調査特別委員会では、精査団体等から提出された改革工程表についての審議が行われました。(八面に掲載)

今回の定例会では、条例、人事、意見書、決議など十七の議案が可決、同意、承認されました。

理想とする健康長寿社会の姿はいつまでも健康で生き生きと暮らせる社会

議員(自民) 県では、本年三月に、第三期いばらき高齢者プラン21を作成したが、高齢者に求める役割と今後の理想とする健康長寿社会の姿について伺う。

知事 すべての高齢者の方々がいつまでも健康で、安心して生き生きと暮らせる社会が理想の健康長寿社会と考える。また、高齢者に求める役割については、意欲のある高齢者の方々には大いに社会に貢献していただくことが重要と考えている。



活用方策について、土浦市などと検討していく。

(ほかに、障害者自立支援法への対応、全国一の霞ヶ浦れんこん産地振興策、土浦駅前再開発事業の進捗状況及び支援策なども質問)

一般質問(要旨)

食育の推進は 県民総ぐるみの運動を展開

議員(自民) 県民一人ひとりが健全な食生活を実践できるよう、家庭、学校、地域が連携を図り、食育を県民運動として取り組む必要がある。今後、どう推進していくのか。

知事 食育を総合的かつ計画的に推進するための「茨城県食育推進計画」を今年度策定する。また、

来年一月開催予定の茨城県食育実践大会にも広く県民の参加を呼びかけるなど、県民総ぐるみの食育運動を積極的に推進していく。

議員 湖沼の水質浄化には、生活排水処理施設の整備や地域住民への啓発活動など、さまざまな取り組みを地道に行うことが大切である。今後、牛久沼の水質浄化をど

う進めていくのか。

生活環境部長 現在、第二期牛久沼水質保全計画の策定に向け準備を進めており、生活排水対策をより一層進めるとともに、霞ヶ浦環境科学センターでの研究成果を活用し、より効果的な方策を検討していく。

(ほかに、高齢者の交通安全対策、県南地域における常磐線沿線地域の振興策なども質問)



親子の料理教室

地域ケアの今後の進め方は 有資格者登用を働きかける

議員(自民) 地域ケアシステムをよりよいものとして推進していくには、地域ケアコーディネーターや在宅ケアチームの質を向上させていくことが重要であると考えるが、今後の進め方について伺う。

保健福祉部長 地域ケアシステムにおける役割が重要であるコーデ

ィネーターへの保健師や社会福祉士等の登用や、在宅ケアチームにシルバーリハビリ体操指導士をはじめいろいろな方の参加を市町村に働きかけていく。

議員 今年十月、全国生涯学習フェスティバルが本県で開催される。この成果を踏まえた、生涯学習に

- 質問者
- 山岡 恒夫 (自由民主党)
 - 白井平八郎 (自民県政クラブ)
 - 大高 伸一 (自由民主党)
 - 黒部 博英 (自由民主党)
 - 伊沢 勝徳 (自由民主党)
 - 小川 一成 (自由民主党)

関する継続的な施策展開が重要である。今後の取り組みを伺う。

教育長 市町村、生涯学習団体や企業等との相互連携をさらに深めながら諸施策を推進するとともに、生涯学習に対する興味や関心の高まりを継続的な学習活動に結びつけ、本県生涯学習の一層の推進を図る。

(ほかに、健全な土



生涯学習フェスティバルのマスコット「マナビィ」